

兒こ雷らい也や豪かう傑せつ譚たん  
 上の卷まがひ  
 十三篇じゅうさんぺん



^13  
 3878  
 25

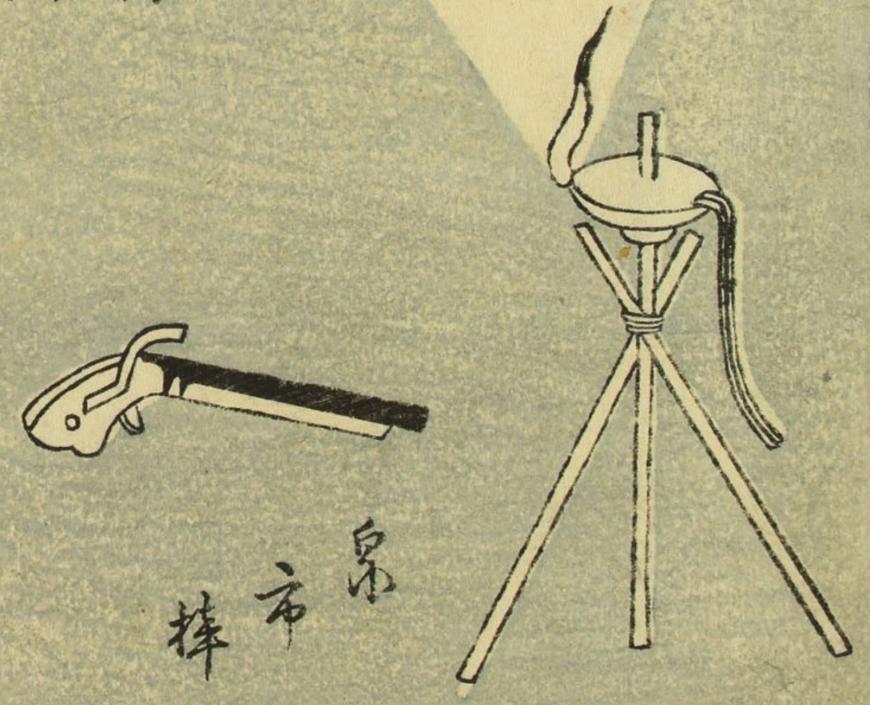


門 へ 13  
 號 3878  
 卷 25

兒雷也  
 豪傑譚

上卷

榊の亭作  
 一壽富画

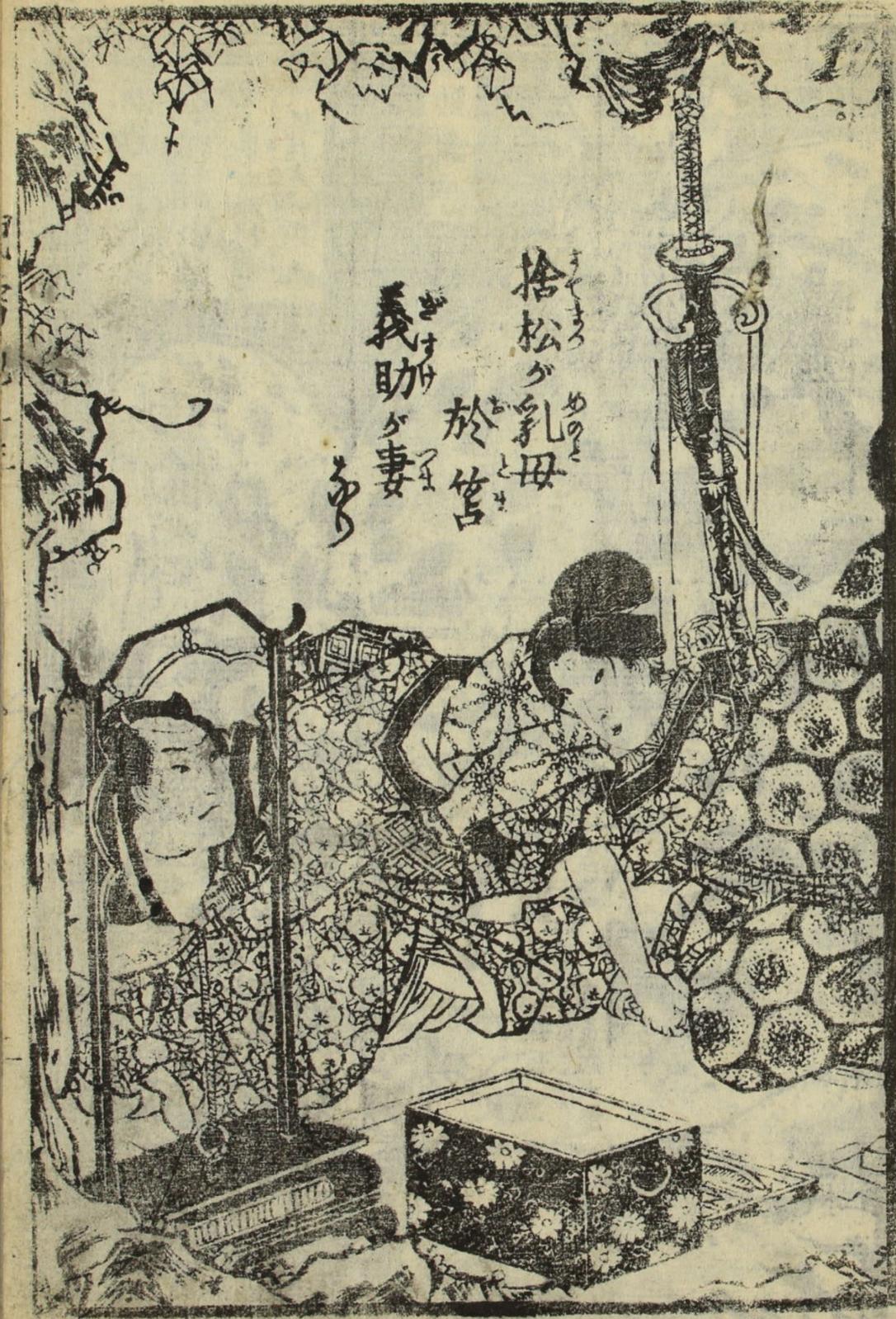


泉市榊

赤眉の賊れ赤本時代黄巾の賊乃黄表帛の頃、稗史の  
 盜賊といふ黒將衣五枚草鞋郡集でも如汰夜でも見違ふ  
 様いなき程るりか當世形が一衰と彼石川の音と發せし高や  
 花の伊達模様袴垂の袴とさ着て艶郎やう偷盜やう  
 兒雷也牛々歳々評判のうや作者の目も極て當ると前  
 祝言是張範的飲めど賣込數編小大夫夫此上り、他の  
 讚ぬ亮と吠る盜跡かぬの年の新著の序文小悪れ名  
 事奉ふがうも善を勧る一部の大意佳兒達の必讀せん  
 事を口管ふ其而巳

于時嘉永庚戌正月 柳下亭種員誌





捨松の乳母  
於宮  
義助の妻

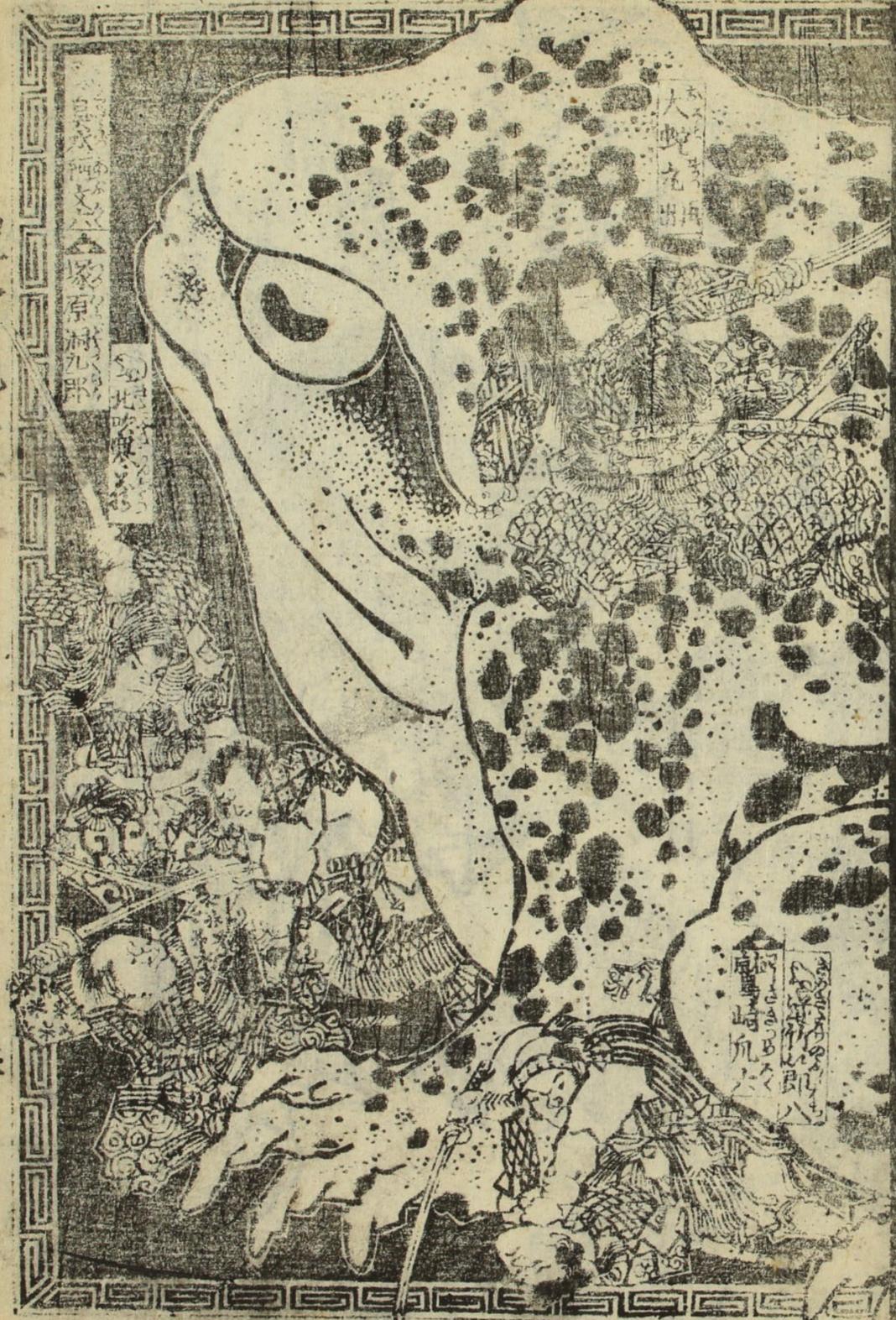


海成張本  
大蛇丸

越後國  
名立濱の  
夫漢

義助  
松崎の僕  
總作  
弟

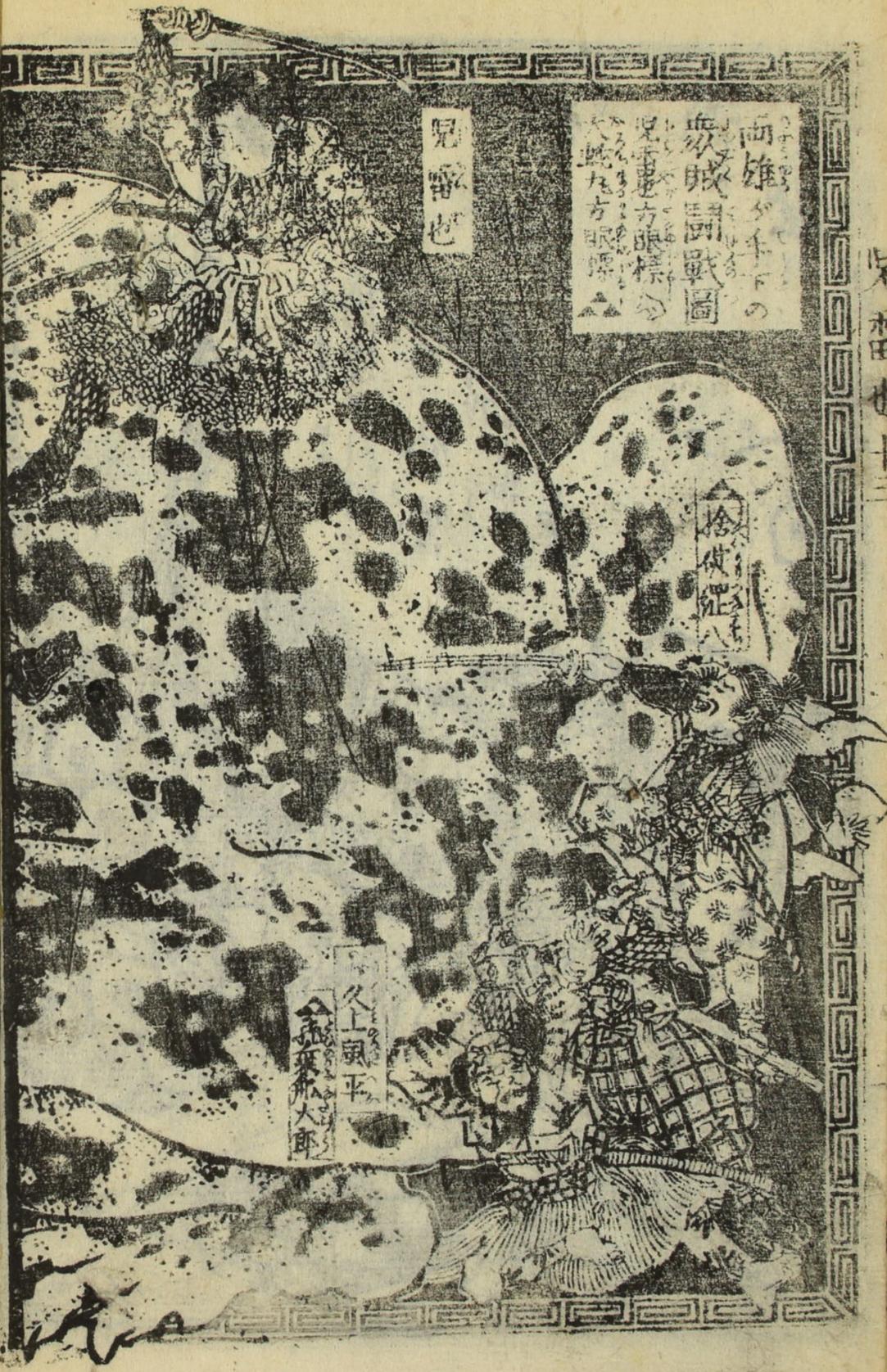
見田也十三



原城

大蛇出

原城



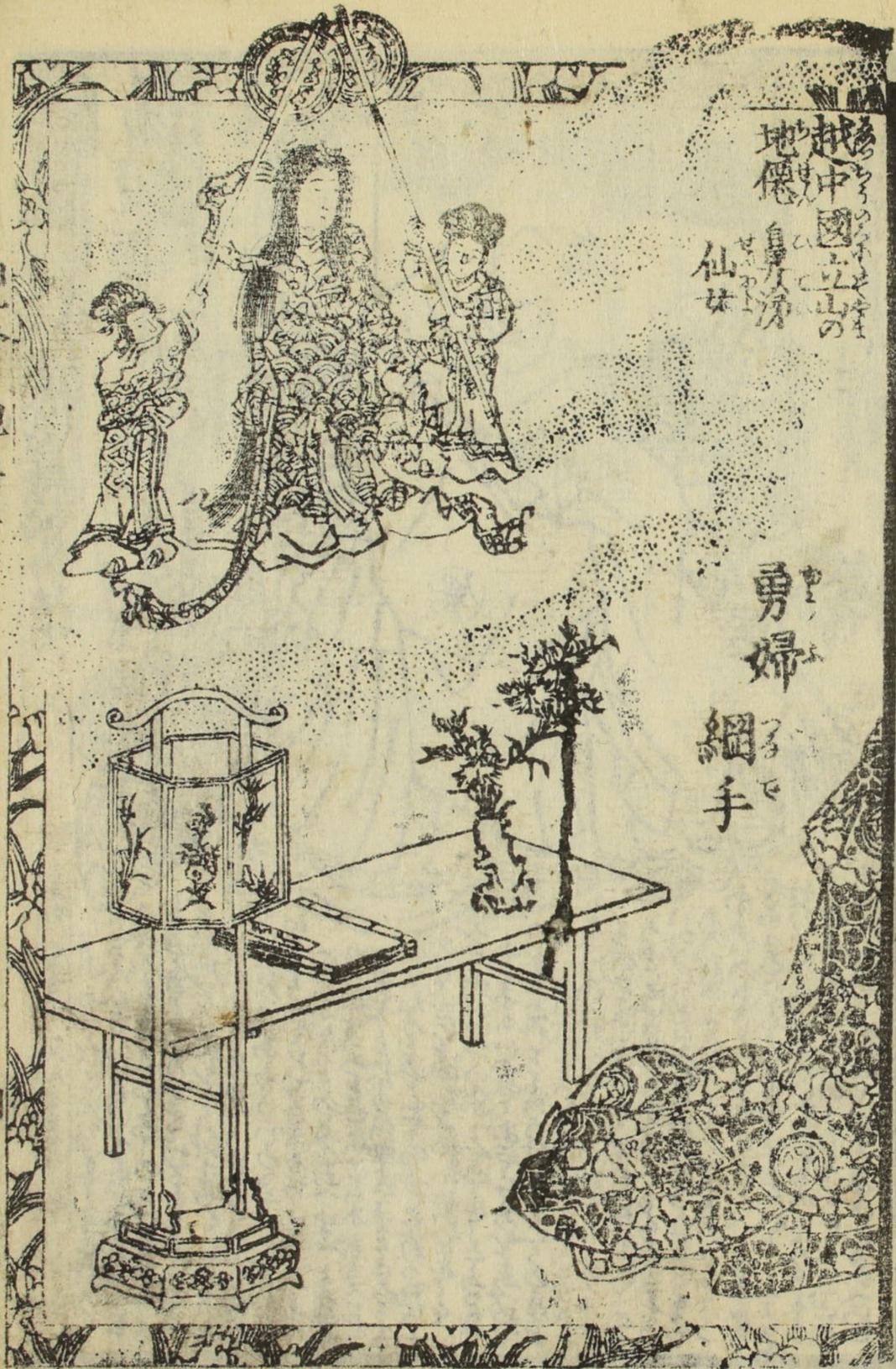
向雄

兒雷也

捨彼

久上風平

原城



地仙  
仙姑  
仙姑

勇婦  
細手



為見雷也尾形弘行  
実の大蛇九手下の  
小嘍囉

地潜  
黑夜又

永久百首  
たちぬらぬ  
衣の紐

ふきとれ  
こころを  
振りまわす

源俊頼朝臣







目録 四 五 十三











